

1. 評価報告概要表

作成日 2007年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201114
法人名	社会福祉法人高崎市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム一路
所在地	群馬県高崎市片岡町3-26-8 (電話) 027-320-7007

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】(H19年 6月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
	利用定員数計 9 人
	常勤 6 人, 非常勤 32 人 常勤換算 5.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての, 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要(6月 14日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏仁会 松岡病院 長谷川歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日常的に地域との連携が密に取れているホームで、民生委員主催の「ふれあいいきいきサロン」には毎月1回ホーム利用者全員で参加したり、保育園からイベントごとに園児がホームを訪れ、世代間交流が行われている。ホームはその利用者が自分らしく生きるため、一人ひとりのペースを大切にし、第2の家族として入居者に寄り添った支援をしている。また年に1回絵手紙の作品展を開催し地域の方に見ていただき、多彩な入居者活動を展開している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では「できている」項目がほとんどで改善課題としては苦情・相談窓口について担当者の氏名と連絡先を明示することだった。今回改善されていることが確認された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はスタッフ全員で作らばられ、前向きに取り組まれた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はこれまで2回開催され、会議内容は事業所活動状況や利用者の状況、行政から運営推進会議の目的等が話されている。今後は会議の話し合いで出された意見を活かした取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームでの暮らしぶり等の近況報告は、定期受診や利用料の納入時に家族に直接お会いして伝えている。今後は、家族会の立ち上げ等を検討し、会としての意見や苦情・不安が表出できる機会を設け、運営に反映していただきたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活における地域との連携は近所の方々と散歩途中に声をかけ、会話を楽しんだり、野菜を届けてもらったりと密に取れている。市から委託された地域の介護相談員もおり、月に1回は訪問してくれている。長寿会や婦人会の方とも交流がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はスタッフ全員で話し合い作りあげており、地域密着型サービスとして日頃から地域との交流が多く、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフ全員で話し合い作りあげており、理念の中味を日々の実践的なケアに具体化できるように取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間を通じて地域の行事に参加したり、ホームには近隣の保育園児が遊びにきてくれるなど、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での指摘事項はすでに改善されており、自己評価は職員会議で話し合いスタッフ全員で作りに上げられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員、家族代表、行政、事務局長、施設長をメンバーとして開催されている。会議内容は事業所活動状況や利用者の状況、行政から運営推進会議の目的等が話されている。	○	今後は会議の話し合いで出された意見を活かした取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが運営推進会議の会場になり市担当者が来たり、ホームの職員が介護保険更新時に市役所に行き情報交換するなど市担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期受診や利用料の納入で、毎月ホームに来る家族にはそれぞれの利用者の暮らしぶり等の近況報告をしている。	○	ホームに来られない家族のためにも、利用者のホームでの暮らしぶりやエピソードなどについて、定期的なホーム便りの発行等を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族の代表に交代で参加してもらっており、その都度家族の意見を聞くことができている。	○	それぞれの家族が意見を気軽に出来るような場所として家族会等を作り、意見や苦情等を出してもらい運営に反映させてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの開設から職員の交替は少なく、職員と利用者は顔なじみの関係を保たれており、利用者のダメージを最小限にする体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームは随時研修の受講をすすめていおり、最近では口腔ケアやAED等の講習会に職員が参加した。資料は全職員に配布し共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は他のグループホームに一日交換研修として行ったり、その研修で事例検討等を行い経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設以来、入居希望者には入居体験を2週間していただき、その後話し合いのあとに入居を決めてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と庭のキュウリ、ナスの収穫を行ったり、その食材と一緒に調理する等行動を共にし、日々の喜怒哀楽も共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	8人のスタッフが2人組になり、2人の利用者を担当しその利用者の思いや希望を把握するよう努めている。また、引継ぎ時等でそれぞれが把握した利用者の意向を伝え合い、共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人、家族との積極的な情報交換や、職員の意見から日頃その利用者が達成できそうな計画なども取り入れ、その利用者の特性に合った計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6カ月に1回見直しを行うとともに、変化が生じた場合は本人、家族等と話し合い必要に応じて現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域で行われる「ふれあいいいきサロン」は、ホームを会場として提供し、地域交流を促している。又保育園との交流も盛んに行い、園児と高齢者が触れ合う大事な場となっている。	○	近くの高齢者も状況に応じてショートステイやデイの利用ができるような柔軟な体制も検討していただきたい。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している利用者、ホームの協力医に受診している利用者もそれぞれいる。定期受診は家族に同行してもらっているが、急な場合は職員が同行し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の利用者は比較的身体機能が保たれており、ホームでは利用者が重度化した場合や終末期のあり方まではまだ考えられていない。	○	重度化した場合や終末期の対応について、家族の希望も聞き取り検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者個々の気持ちや思いを理解し、損ねないような言葉かけや対応を心がけている。またプライバシー確保のため個人の記録等は家族以外に閲覧できないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは職員が利用者一人ひとりにゆっくり向き合う時間を作っており、利用者も自分のペースで穏やかに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は食事が楽しみになるように一緒に食事に出すキュウリを庭に取りに行き調理したり、茶碗を洗うなどの後片付けも協働している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっており、それ以外に夏は毎日シャワー浴をしている。入浴を拒否されるような場合には清拭を行い清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	詩吟、習字、カラオケ、絵手紙、ドリル(頭の体操)等その利用者の力を見極め、多くの楽しみ事を提供している。また絵手紙は年に1回近くの信用金庫をお借りして作品展を開催し、張り合いや喜びある生活の支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は午前中の日課で、買物、ドライブも外出もしている。コーヒーが好きな利用者には希望に添って近くのコーヒー店に出かけられるよう同行支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来玄関に鍵をかけない実践をしてきたが、不審者進入防止を考え、玄関に鍵をかけるようになった。	○	再度利用者の立場に立ち、鍵がかけられ、心理的な不安や閉塞感を考慮し、利用者安全を確保しながら日中鍵をかけないで済む工夫に取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月第1土曜日を防災の日と決め、非難訓練をされている。その時に水とカンパンの入れ替えを行っている。消防署の人には年に1回来てもらっており、災害時、ご近所の数軒の方が昼夜を問わず、協力してくださる体制も作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じて摂取する飲水量や栄養バランスを考え、食事時間以外にも水分を摂取できるようお茶の時間を10時、15時に設定している。夜間も水分補給を巡視時に適宜行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは2階建てで1階は浴室と居室、2階は台所とホールとなっており、利用者は1日の大半を2階で過ごされている。ホールは明るく、風通しがよく、窓から市内が一望でき季節も感じられ居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレと洗面台が設置されており、居室に馴染みの物を配置して利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。入口には暖簾がかけられ、場所間違いをしないように手作りの表札がかけられており、その人らしい居室となっている。		